

「高校生のための古文書ワークショップ」の概要

県史編さん室 岡村吉彦

- 1 日時 令和元年6月9日（日） 午前10時～午後4時
- 2 会場 鳥取県立博物館会議室・閲覧室
- 3 参加者 高校生5名（鳥取西高等学校3名、倉吉東高等学校2名）
智頭農林高等学校 岸本智志教諭
- 4 指導者 県立博物館：来見田博基主任学芸員、山本隆一朗学芸員
県史編さん室：岡村吉彦室長

概 要

・午前10時開会、岡村が趣旨説明・日程説明したあと、参加者・指導者の自己紹介。

【体験1】古文書に触れてみよう！（10：15～11：15）

- ・博物館所蔵の中世文書2点・近世文書5点の原本を閲覧した。閲覧史料は以下の通り。
中世：毛利輝元書状（折紙）、陶晴賢書状（切紙、切封あり）（以上「宮本家文書」）
近世：将軍宛行状（奉書紙）、宗門改帳（縦帳）、分郷帳（横帳）、剣術伝書（卷子）等
- ・最初に岡村が古文書を取り扱う上での注意事項を説明。次いで古文書の様式や封式について岡村と来見田が解説した。
- ・その後、2つのグループに分かれ、Aグループは中世文書（宮本文書）、Bグループは近世文書（驚見家文書）の原本を用いて、日時・法量・形状・裏書の有無等を調べ調査カードを作成した。

【体験2】古文書を解読してみよう！（11：15～12：30、13：15～13：45）

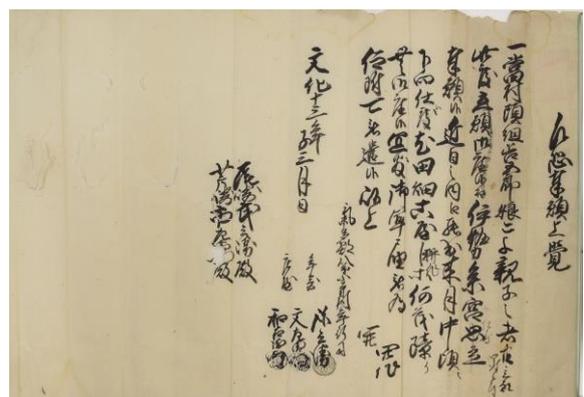
- ・中世・近世文書の写真版をもとに、グループでくずし字を解読した。Aグループは「大山寺文書」の山名持豊安堵状、Bグループは「植田家文書」の伊勢参官許可願を用いた。
- ・はじめに「くずし字解読辞典」「くずし字用例辞典」の使い方を説明。難読文字はそれらの辞典を用いて、グループ内で話し合いながら読み解いていた。
- ・12：30前に解答を配付する予定であったが、もう少し解読に挑戦したいという声が多く、午後の時間の最初に引き続き解読作業を行った。

○今回の解読に使用した古文書写真

A グループ「大山寺文書」



B グループ「植田家文書」



【体験3】展示用キャプションを作ろう！（13：45～15：30）

- ・ 解読作業終了後、閲覧室に会場を移し、解読した古文書の内容を解釈して、グループで200字程度の展示用キャプション（解説文）を作成した。
- ・ 読み下し文をもとに、文書に書かれている内容を読み取り、地名を地図で確認したり、人物・歴史用語を「国史大辞典」等で調べて、書かれた内容に対する理解を深め、それらをもとに200字程度の解説文の原稿を作成。
- ・ 原稿を生徒自身がパソコンに入力し、プリントアウトした後に、パネル（タテ13.0cm×ヨコ17.0cm）に貼り付けて整形した。
- ・ その後、会議室に移動し、文書写真と作成したキャプションを並べて展示し、各グループのリーダーが内容について解説した。
- ・ アンケートを記入して終了。

所感

- ・ 今回は歴史学に興味関心のある生徒を対象としたこともあり、かなり意欲も高く、他校の生徒ともすぐに打ち解けて、和気藹々と楽しく取り組んでいた。
- ・ くずし字解読はほとんどの生徒が初めてであったが、難読文字に対しても辞書を使ったり相談し合って粘り強く取り組んだ。また午後のキャプション作成についてもグループで話し合いながら、高いレベルの内容をまとめあげることができた。アンケートをみても「将来の進路に向けてよい経験となった」「くずし字が解読できたときの達成感はすごかった」等の感想が多く、いずれの生徒も満足感・達成感を得られたと思われる。
- ・ 今回は初めての試みであったが、生徒たちの様子から、本物の歴史資料に触れたり、仲間と協力しながら1点の地域資料から地域の歴史を「創る」という体験が、生徒たちの新鮮な「学び」につながるということを実感することができた。アクティブラーニングやふるさと教育の取り組みの1つとしてこのような活動も有効だと思う。
- ・ 今後、県史後継事業の中でも、地域資料の活用や地域に誇りを持つ人材の育成という観点から、学校側と連携を図りつつ、引き続きこのような取り組みを進めていきたい。

「高校生のための古文書ワークショップ」の様子（6月9日）

○古文書を扱う上での注意事項を聞いているところ



○緊張した様子で丁寧に古文書を開き、熟覧および調査カード作成



○くずし字の解読に取り組んでいる様子



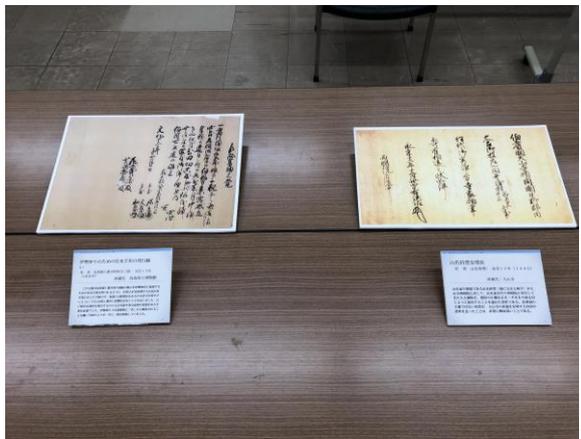
○話し合いながら展示用キャプション（200字程度の解説文）を作成



○原稿はPCに打ち込み、パネルに貼り付け



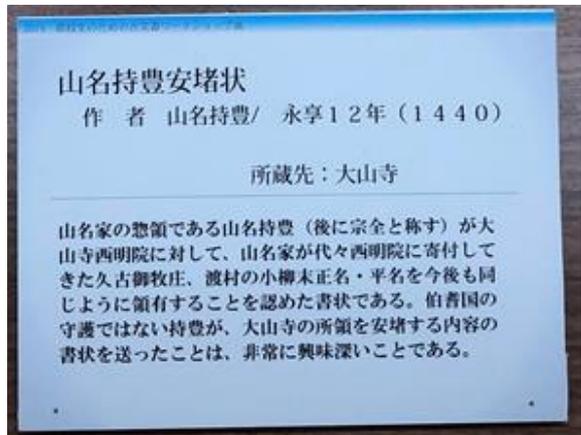
○文書写真と並べて完成！



○完成したキャプションをもとに文書の内容を発表



○中世グループの作品



○近世グループの作品

